



コハクチョウ（2羽）の初飛来が10月7日に確認されました。例年（10日飛来）より3日早く、昨年（3日飛来）より4日遅い飛来でした。

Vol.149

令和4年度11月号

エコトーンの整備

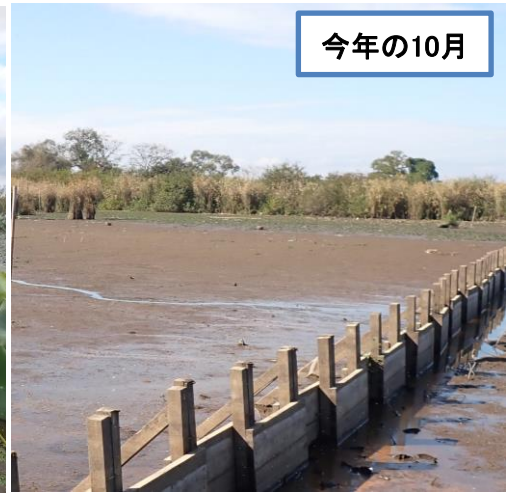
9月から10月にかけて、沼の水位を下げながら、エコトーンを整備を行っています。

エコトーンは、干出したり水没したりする水辺を指し、生き物にとって重要な生息場所になっています。これまでのエコトーン整備により、干潟のような湖岸ができて来ました。県による昨年度の調査でもエコトーンには水質汚濁の抑制効果もみられており、沼の生態系をさまざまな角度から修復することを目指しています。

去年の10月



今年の10月



仙台二華高校の生徒が保全活動を体験しました

9月29日に仙台二華高校の生徒が水生植物園で保全活動を体験しました。体験内容は、胴長を着ての沼歩きとカキツバタの植栽、アシカキ等の雑草の草刈りの3種類の保全活動を体験しました。沼歩きでは、水の中を胴長で歩く感触に驚きながらモツゴ等の小魚を採集しました。植栽や草刈りでは活動中のイナゴやカエルの突然の遭遇にもおどろいた様子でした。



沼の水位が下がり、沖まで遠浅でした



カキツバタの株分けには力も必要です



トヨタ東日本(株)の皆さん



豊田合成(株)の皆さん

宮城県や地元栗原市を代表する2つの企業による環境保全活動が、今年も伊豆沼・内沼で行われました。7月の豪雨被害により荒れてしまった観察路の修復やヨシ刈りを行いました。参加された皆さまは、秋晴れの中、額に汗を流しながら一生懸命取り組んで下さいました。マガンも飛来し始めた伊豆沼を訪れた皆さま方がくつろげる場として少しずつ整備が進んでいます。



— 高等学校理科実験部会の秋季総会・研修会が開催されました —

10月6日に理科実験部会の秋季総会と研修会が開催され、「伊豆沼・内沼の自然とその保全」の講話後、当サンクチュアリセンターの水生植物園において、沼に生息する水生生物の観察や湿生植物の観察と保全実習を行いました。

宮城県在住の先生方であっても、伊豆沼・内沼に生息する生物に直接触れる機会は少ないことと思います。

今回の研修会を通して、伊豆沼・内沼の自然と、そこに生息する生物への理解が広がることを願っております。

水生生物の説明を聞いた後・・・



水生植物の説明を聞いた後・・・



慣れない胴長を履いて、沼に入り、生物の観察です。



スコップを手に保全作業の実習です。

— 伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ 野菊の仲間 ～ —



ノコンギク



カントウヨメナ



ユウガギク



シロヨメナ

秋本番を迎えつつあるこの時期に、伊豆沼を彩る草花として、野菊の仲間があげられます。

伊豆沼周辺では、これまで5種類の野菊が確認されています。この内、ノコンギク、カントウヨメナ、ユウガギクの3種は花や葉の形がよく似ており、見間違ふこともあります。

野菊は花が美しいものは栽培され、食感のよいものは山菜として利用されるなど、人々の生活との関わりの深い草花です。一方でその分類は未だに混乱しており、我が国に何種類の野菊が自生しているのか誰にも分かりません。中には絶滅が心配される種も存在するなど、身近で奥が深い草花です。

